

(別紙様式)

都道府県番号	11
都道府県名	埼玉県

()
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

白岡町立白岡東小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	0	18	26
児童数	83	98	88	103	105	104	0	581	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 基礎・基本の確実な習得を目指す学習指導の工夫・改善</p> <p>・テーマ設定の趣旨 生涯学習の基礎的な資質である「生きる力」は、基礎・基本を確実に習得することを通して育てられる。基礎・基本とは、読み・書き・計算だけでなく、これを基盤とする問題解決能力や考える力、創造性を含むものとする。児童は、わかりたい、楽しく学習したい、できた喜びを味わいたいという願いを持っている。一人一人の児童が持っているこの願いを実現させ、個性を生かす教育を充実したいと考え本主題を設定した。</p>

・実践研究の内容について(選択した観点を中心に記述)

() 研究体制の工夫

仮説

問題解決の学習を通して、児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導をすれば、基礎・基本が確実に習得でき、確かな学力を身につけさせることができる。

研究内容・方法

- ・実態調査を実施し、理論構築を図る。
- ・授業研究を通して、個に応じた指導に努める。

() 実践研究の内容

教材開発の工夫

1 よい問題の開発

基礎・基本は問題解決の過程を通して、一人一人の児童が身に付けていく。よい問題の開発は、問題解決指導の鍵となる。

(1) 基礎・基本を厳選した問題の開発 <6年 「単位量あたりの大きさ」 Cコース>

ドラえもんとのおび太が、ここから60kmはなれたディズニーシーに行きます。時速15kmで進むタケコプターでは、何時間かかるでしょう。
--

<意図>・単位量あたりの大きさの基礎・基本を速さに絞り、Cコースにおいて確実に身に付けさせる。

- ・興味を引く場面設定と簡単な数値で、問題解決に進んで取り組ませる。

(2) 発展的な問題の開発 < 5年 「百分率とグラフ」 Aコース >

果汁 18 %のオレンジジュースが 300 グラムと、15 %のオレンジジュースが 200 グラムあります。それぞれの果汁は何グラムでしょうか。
 二つのオレンジジュースをまぜたら、果汁何%になるでしょう。

- < 意図 > ・ 検討の終わったグループから発展問題に挑戦させ、比較量の求め方を定着させる。
 ・ 数直線の活用を進める。

(3) 多様な解決方法が生まれる問題の開発 < 2年 「長さのたんい」 >

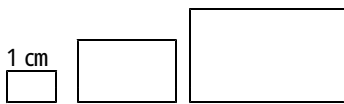
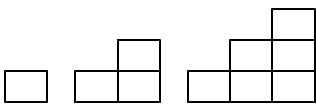
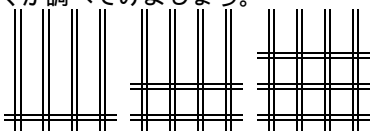
いつでもどこでもつかいやすい体のものさしをさがしてつかってみよう。

- < 意図 > ・ 体の一部から10cmのものさしを探し、それを使って概測するよさに気付かせる。
 ・ ものさしを使って身の回りの物を測る活動を通して、測定の技能に習熟させる。

2 コース別学習に対応する指導計画の作成

単元の基礎・基本を厳選し、それぞれのコースで学習する児童にふさわしい指導計画をコース毎に作成する。

< 4年 「どのようにかわるかな」 6 / 6 時間 (第 4 時よりコース別学習) >

Aコース：発展	Bコース：標準	Cコース：基礎
<p>1 辺の長さを 1 cm ずつ大きくして、色々な正方形を作りました。この図からできる問題を作りましょう。また、問題ができたら自分で問題に挑戦しましょう。</p> 	<p>1 辺が 1 cm の正方形の紙をならべて下のような形を作ります。段の数を 1 段、2 段、3 段... と増やしていくと、まわりの長さはどのように変わるか調べましょう。</p> 	<p>ヘチマの生長につれて、下の図のように支柱を組みました。1 段、2 段、3 段... と高くなるにつれて結ぶひもの数がふえました。結ぶひもの数がどのように変わっていくか調べてみましょう。</p> 

3 コース別学習に取り組むための「振り返りチェックテスト」と「ガイダンス」

一人一人の児童が、自分はどのコースで学習することが最も相応しいか判断し、選択できるようにするために「振り返りチェックテスト」と「ガイダンス」を行う。

----- < 5年 「百分率とグラフ」 振り返りチェックテスト 1 / 13 時間 > -----

【チェック 1】数量の関係を数直線に表し、答えを出すことができる。

次の問題を数直線に表しましょう。また、問題に答えましょう。

- (1) 赤と青の 2 本のテープがあります。赤いテープの長さは 5 m です。
 青いテープの長さは赤いテープの 0.6 倍あります。青いテープは何 m ありますか。
 < 数直線 > < 式 > < 答え >
- (2) ようこさんの家から駅までの道のりは 2.4 km あります。かよこさんの家から駅までの道のりは 3.6 km です。ようこさんの道のりをもとにすると、かよこさんの道のりは何倍になりますか。
 < 数直線 > < 式 > < 答え >
- (3) あきらさんのお父さんの体重は 63 kg です。これはあきらさんの体重をもとにすると 1.8 倍にあたります。あきらさんの体重は何 kg ですか。
 < 数直線 > < 式 > < 答え >

【チェック 2】割合の意味や表し方が分かる。(未習の内容)

次の問題に答えましょう。

(1) 1.25 kmの72%の長さは何kmですか。

< 答え >

(2) 9 ℓ は12 ℓ の何%ですか。

< 答え >

----- < 5年 「百分率とグラフ」 ガイダンス資料 > -----

【チェック】 問題場面を数直線で表すことができたかな？

問題を読んでもとにする量や何倍にあたるか、求められたかな？

うきうきコース(A) 数直線を使うと問題の意味がよく分かるよ。やり方も説明できるよ。

身のまわりから見つけて、いろいろな割合の問題にチャレンジします！割合の鉄人になろう！

わくわくコース(B) 数直線の書き表し方はだいたい分かるけど、数直線を使ってもかけ算の式か、わり算の式か、まようことがあるよ。

数直線を使っているいろいろな割合の問題にチャレンジします！割合の達人になろう！

らんらんコース(C) 数直線を書くときにどんなふうにしたらいいか、よく分からないよ。どんな式になるか、よくわからない。

数直線がかけるようにじっくり学び、式のたて方を学習します。数直線の名人になろう！

() 成果と課題

< 成 果 >

- ・問題解決の学習を通して、解決の計画・実行段階での問題への取り組み方、解決検討での話し合いの仕方など、少しずつ身についてきた。
- ・問題解決を基本とした学習、個人差に応じた指導を通して、一人一人の児童に分かる喜びを味わわせる授業を展開できるようになってきた。
- ・コース別学習の指導計画をどのように作成するかその手順が明らかになってきた
- ・コース選択をするための児童の判断材料となる「振り返りチェックリスト」や「ガイダンス」の資料の作り方、活用の仕方が少しずつ明らかになってきた。
- ・チームティーチングにおけるT₁T₂の役割が明確になり、2人の教師で指導するよさがあらわれるようになった。
- ・コース別学習では、コースの性格に応じた指導方法はどうか少しずつ明らかになってきた。

< 課 題 >

- ・獲得した知識や技能を活用して、よりよく問題を解決する力を育てるためには、どのように指導したらよいか、さらに明らかにしていく。
- ・個人差に応じた指導を一層推進するために、一人一人の児童の実態をどうとらえ、指導に活かしていくか明らかにする。

() 成果の普及方策

- ・東部地区学力向上推進協議会における発表
- ・新しい算数研究12月号座談会において取り組みの発表
「算数の学力向上をめざした取り組みが教室を変える」
- ・保護者への説明および成果発表